平成26年度　文部科学省　共同利用・共同研究拠点
「国際常民文化研究機構」(B) 共同研究（奨励）申請書

研究課題名	河原田盛美における本草学的知識から近代勧業的実践の転換に関する研究		
申請者氏名 （研究代表者）	（ふりがな）たかえす　まさや 高江洲昌哉　印	所属機関 職 専門分野	神奈川大学 非常勤講師 日本近現代史

	氏　名	所属機関・職・専門分野	分担課題
研究組織	高江洲昌哉	神奈川大学・非常勤講師・日本近代史	日本近代史の分野から沖縄での活動や官僚経験などを分析する
	中野泰	筑波大学・准教授・民俗学	本草学的知識の解明、水産業の近代的展開を解明する
	増田昭子	法政大学沖縄文化研究所・国内研究員・民俗学	過疎地の殖産興業を目指した地方実業家の事績を解明する
	中林広一	立教大学等・兼任講師、中国農業史・食物史	本草学に関する河原田の知的基盤の検討、日本の近代水産業と中国市場の関係を分析する
	泉水英計	神奈川大学・教授・文化人類学	琉球関連資料の収集および照合と共同研究全体のコーディネートをおこなう。
	小野まさ子	沖縄県教育庁文化財課史料編集班・指導主事・琉球史	研究協力者（モノ資料を含む河原田家所蔵沖縄関係資料全般についてコメントをおこなう）

研究目的と期待される成果

本研究は、南会津町にある河原田家資料の整理を通して、新しい地域歴史像の提示を試みるものである。この研究は、在野の有志が中心となって河原田盛美著『沖縄物産志・清国輸出日本水産図説』を平凡社版東洋文庫の１冊として刊行するために協同したことを契機とし、メンバーを拡充して基盤研究をおこなう体制をとる。この理由は、本来ならば積極的に関与すべき福島県立博物館や沖縄県立博物館、地元南会津町では十分に対応できないという地域社会の実情があるからである。

本研究の対象とする河原田家資料には、近世期に集積された家政資料・質地証文などの在地資料だけでなく、明治期の当主であった盛美が作成・収集した資料も多く残されている。本研究で取り上げる河原田盛美は、幕末期に国学や博物学の修養を修め、「家」や村の維持につとめる「豪農」的教養の持ち主であったが、明治初年に琉球処分官として「琉球藩」へ赴任したことを皮切りに、与論支庁長を経て、農商務省水産局の技手として、水産業の発展をはかる書物を著し、技術改良指導のため全国各地を飛び回り、多数の復命書を書いている。在官時代の盛美は、近代日本の「産業振興」を下支えする活動をおこなってきた。また退官後も、県会議員を務めるかたわら、地方銀行の重役、農林業の推進、鉱山・温泉調査、教育機関の整備、鉄道施設計画に奔走するなど地元の産業振興にも精力的に取り組む名望家として活動している。

こうした経歴が示すように、盛美の代に作成・収集された河原田家資料は、在地にとどまらない全国に広がる資料及び勧業政策に関わる資料を有している。つまり盛美時代の資料は、農商務省の水産業担当官僚であったため、明治前・中期における地域の産業振興と国家的な殖産勧業政策の結びつきがわかる資料群を形成している。

研究の主たる目的

本研究は、このような経歴をもつ河原田の沖縄経験と水産官僚への転進にかけての継続と断絶を分析することで、西欧型の専門知識を駆使する官僚が輩出される以前に活躍した河原田の活動を通して、近代日本における知識の変容と活用を明らかにするものである。特に河原田の本草学的知識に注目することで、これまで個別にアプローチされてきた河原田の活動（例えば、琉球処分官時代の経験と水産技手時代の活動という単純な二分法）を知識的な連続・断絶といった面から検証をおこなう。

（１）水産官僚の視点から解明する水産業の近代的展開の解明

また、本研究では日本の水産史・中国の食物史の研究者が参加しており、彼らの分析を通して、一貫した河原田という担当者の視点と、歴史的枠組みという大枠の視点からアプローチする特色を有している。換言すれば、一地方知識人の視点を軸にあわせ持ちながら、殖産勧業政策における水産業の位置づけと輸出産業としての水産加工品の役割を再定置し、近代水産業史を総合的に把握する視座を提示したいと考えている。

（２）地方実業家としての活動の解明

同時に明治 24 年の河原田退官後、郷里の奥会津でおこなった活動を通して、官僚時代に培ってきた知識と技術を地域に定着させた活動の検証もおこなう。こうした琉球処分官から農商務省官僚時代の活動と近代地方実業家としての活動を解明することで、一人の人間を通して地域から近代日本の歩みを照射することができる。

（３）河原田家の蔵書整理

多様な特色を有する河原田家資料の整理作業は、地域政治史の歴史像を豊富化してきた従来の在地豪農(名望家）家の所蔵資料と同様、政治史に貢献できる面を少なからず有している。さらに、河原田盛美の作成・収集した資料の調査分析は、思想史・地域史・水産史・東アジア経済史といった多様な歴史層を結びつける潜在力を有している。旧家の所蔵調査から新しい地域史像を提示することが、本研究の成果として期待される所である。

以上見てきたように、本研究は、テーマで掲げている河原田盛美の知識と実践の解明を主軸にしているが、（1）山村地域の近代化を志向した地方実業家としての活動の解明、（2）地域と国家を媒介する水産官僚の視点から解明する水産業の近代的展開、（3）南会津の河原田家に残されている膨大な蔵書整理という３つを柱にしている。

これらを有機的に結びつけることで、常民文化を活用するための歴史的な知の集積と、変化の側面、さらには地域振興という今日的課題に対応する総合的人文学研究の成果を提示したいと考えている。

研究計画（年次別）

＊年次ごとに研究計画と予算の関係が分かるように具体的に書いてください。

１：調査旅費及び消耗品費を主に使う計画

（1）河原田家調査…これまでの調査を踏まえて南会津河原田家の資料のうち、沖縄関係及び水産関係資料の確認及び整理を集中的におこない目録を作成する。

平成 26 年度…南会津河原田家への調査及び資料の保存箱・中性紙封筒への移し変えといった適切な保存措置、資料の撮影

沖縄からの調査協力者を得て、沖縄関係資料の補足情報を得る

平成 27 年度…南会津河原田家への調査及び資料の保存箱・中性紙封筒への移し変え、資料の撮影をおこなう

（2）河原田盛美の地域振興に関する史蹟等の実地調査…退官後の河原田は養殖や水利整理など地域振興に尽力したことにより、顕彰碑なども作られたらしいが、未調査のものが多く、聞き取り調査・資料調査などをおこない、概要調査をおこなう。

平成 27 年度…南会津河原田家調査の際に併せておこなう（豪雪地帯なので、平成 27 年度の春以降に実施する）

2：調査旅費を主に使う項目

（1）関連資料の収集のための調査・研究…『沖縄物産志』に言及されている水産物など物産に関する資料収集をおこない、河原田の沖縄物産に関する知識の確認作業をおこなう。

平成26・27年度…沖縄県へ調査

3：印刷製本費を主に使う計画

（1）河原田家所蔵資料及び東洋文庫『沖縄物産志・清国輸出日本水産図説』と関連する他機関所蔵資料の調査。

平成 26 年度…国文学研究資料館所蔵の河原田関係資料を撮影する、国会図書館憲政資料室所蔵の品川弥次郎文書・前田正名文書より河原田盛美関係、水産業勧業政策関連資料の撮影、大学図書館等に所蔵されている河原田盛美著復命書などをを撮影

平成 27 年度…国文学研究資料館所蔵の河原田関係資料を撮影する、大学図書館等に所蔵されている河原田盛美著の復命書などの撮影

４：諸謝金を主に使う計画（２年間）

（１）収集した資料の目録作成の補助作業及び重要な資料の翻刻データ作成